

秋田県立男鹿工業高等学校 中期ビジョン(5か年計画)



【令和8年度～令和12年度】

I 本校が目指す姿

① スクール・ミッション

男鹿の風を受けて新しい産業や地域の未来を支える生徒を育成する学校

② スクール・ポリシー

(i) グラデュエーション・ポリシー(目指す生徒像)

- 1 基礎的な学力と専門的な知識・技術を身に付け、ふるさとを愛し、洋上風力発電等の新産業を含む地域社会と産業の活性化を担う、幅広い視野と柔軟な発想をもつ生徒
- 2 自ら学び続ける意欲と課題解決に主体的かつ協働的に粘り強く取り組む態度を身に付けた生徒
- 3 部活動やものづくり等のコンテスト、高度な資格検定試験に積極的に挑戦し、自己を磨き続ける生徒

(ii) カリキュラム・ポリシー(本校の学び)

- 1 思考力、表現力、幅広く柔軟なものの見方・考え方等、課題解決のための実践的な力を育成する。
- 2 地域の教育資源を活用しながら、探究的な学習活動を通して、高度な知識・技術を育成する。
- 3 産学官連携事業等を通して、特に再生可能エネルギー事業等の先端技術に触れる専門的かつ実践的な教育を推進する。

(iii) アドミッション・ポリシー(求める生徒像)

- 1 専門的な知識と技術の習得に主体的かつ協働的に取り組み、技術者として自己を高める意欲のある生徒
- 2 社会貢献意欲にあふれ、地域の課題に関心をもち、粘り強く探究活動に取り組む生徒
- 3 部活動やものづくりにおいて責任をもち、仲間と切磋琢磨しながら積極的に取り組む意欲のある生徒

Ⅱ スクール・ポリシーを踏まえた5年間の取組

① 現状と課題

(i) 生徒数

少子化の影響により募集定員に対して、全校の充足率は約63%となっている。令和8年度からの学科改編により1年生は1学科減の2学科となったが、依然として厳しい状況にある。

(ii) 進路状況

近年の進路達成率は100%であり、就職が約80%、進学が約20%である。地元企業・県内外企業・公務員・大学等、多種多様な進路を実現しているが、さらなる専門性の向上が期待されている。

(iii) 部活動

空手道部やラグビー部が全国大会出場を果たすなど活発であるが、部員不足が課題となっている。

(iv) 資格取得、コンテスト

第3種電気主任技術者の合格者輩出や、3Dデザインコンテストでの最優秀賞受賞など、工業の専門性において顕著な成果を上げている。課題は資格取得に対する動機付けのさらなる強化である。

(v) 地域との連携・統合準備

近隣の小学校や特別支援学校との交流を継続している。令和11年度の統合に向け、男鹿海洋高校との教育課程の調整や、2キャンパス制から新校舎への円滑な移行準備が喫緊の課題である。

② 具体的な取組

(i) 学力向上のための授業改善と探究学習

- 1 ICTを活用した組織的な授業改善を推進し、主体的・対話的で深い学びを実現する。
- 2 統合校の共通科目となる「男鹿の地域資源」を意識した、地域課題解決型の探究学習を推進する。

(ii) 個に応じた進路指導とキャリア教育

- 1 1年生からの早期進路意識啓発と、地元企業・大学等と連携したインターンシップの充実を図る。
- 2 同窓会や地域企業と連携した就職支援体制を強化し、望ましい職業観を育成する。

(iii) 教育・研究機関や企業等との連携

- 1 大学や地域企業等との連携により、洋上風力発電等の新たな産業に対応した実践的なものづくり教育を推進する。
- 2 高い技術力をもつ企業と連携し、VRやドローン、3D-CAD等を活用した先進的な教育課程を開発する。

(iv) 地域社会との交流と貢献

専門性を生かしたボランティア活動や、地域行事への参画を通して、ふるさとを愛し貢献する心を育む。

(v) 部活動の活性化

地域の教育力を活用した指導体制の充実を図り、技術と精神力の両面を鍛える活動を展開する。

(vi) 男鹿海洋高校との連携と統合に向けた準備(最重要項目)

- 1 統合に向けて、生徒会活動や課題研究発表会での交流を深化させ、両校生徒の相互理解を促進する。
- 2 令和11年度の統合を見据え、工業科としての新たな教育課程(機械システム科・電気エネルギー科)への移行準備を組織的に進める。
- 3 保護者や地域社会に対し、統合後の特色ある教育活動(洋上風力発電等の学び)について積極的に情報を発信し、理解と期待を高める。